景観に対する意味理解への態度と地域アイデンティティへの指向性の関係に関する基礎的考察

東北工業大学　学生会員　○近石　さゆり
東北工業大学　正会員　泊　尚志

１．はじめに

景観は地域アイデンティティを強化するという考え方が示されている[1)]．しかし，景観の捉え方は多様であり，景観阻害要因と言われる景観要素が地域アイデンティティとして認識される場合もある[2)]．また，地域アイデンティティを見つけ出すのが困難な地域もあるだろう．地域アイデンティティ形成に影響を与える景観要素について知見を得ることも重要である．しかし，景観要素への市民の接し方，すなわち景観に対する意味理解への態度と，地域アイデンティティへの指向性といった市民の態度について知見を得ることによって，地域アイデンティティ形成への新たなアプローチの可能性を持つと考える．

以上を踏まえ，本稿では，文献調査に基づき，景観に対する意味理解への態度と地域アイデンティティへの指向性との関係について基礎的考察を行うことを目的とする．

２．本稿の位置付け

今日，景観については，様々な観点から重要性が唱えられているが，地域アイデンティティの観点からも重視されている．例えば欧州景観条約では，景観はヨーロッパのアイデンティティを強化するものと示されている[1)]．一方，地域アイデンティティについては，地域の再生に貢献する[3)]ことや，地域の将来性に直結する[4)]ことが指摘されている．

このような動きに対する課題として，景観の捉え方の多様性による政策とのズレと，全ての地域で地域アイデンティティ要素を見つけ出すことの困難さが挙げられる．国土交通省「美しい国づくり政策大綱」[5)]では，国民が日常的に接する普通の地域の大部分は地域の個性を規定するものがはっきりしないと述べられている．また特別な景観を保全することで地域アイデンティティへの形成・継承を図ることの困難さも指摘されている[6)]．

このような課題に対して，既往研究では景観と地域アイデンティティそのものの関係性についての指摘が多い．これに対して本稿では，市民が地域アイデンティティに指向する条件に着目し，景観に対する態度との関係に着目する．

３．地域アイデンティティ概念と地域政策的意義

地域アイデンティティ概念は多義的であり，これまで様々な分類が行われてきた．本稿では，所有，共有，行為の３つの観点から複合的に定義されていると考える．はじめに所有の観点から，地域が所有する地域アイデンティティと個人の中に所有される地域アイデンティティに分けられる．例として，城月ら[7)]は，地域アイデンティティを「地域（が持つ）地域アイデンティ」と「地域（と関連する自己）アイデンティティ」の２つに定義しており，それぞれ前者と後者にあたる．これらの違いは，地域アイデンティティとは地域が所有するものなのか，個人の中に所有されているものなのかということにある．つぎに，共有の観点では他者との共有を前提としているか，個人の実感を重視しているかに分けられる．前者の例では，渡部[8)]が，地域アイデンティティを「生活や生業の日常的実践を通じて形成され，地域の生まれ育った者の間で共有される集団的アイデンティティ」と定義している．後者の例では，重岡ら[9)]が，地域アイデンティティを「住民ひとりひとりが自ら住まう地域のことをしっかりと意識する，あるいは自ら住まう地域が自分にとってかけがえのない場所であることをしっかりと自覚する，その意識や自覚といった感情」と定義している．これらの違いは，地域アイデンティティとは個人の中で完結するものなのか，共有されることで成立するものなのかである．最後に行為の観点では，地域と個人の関わりがあるものと無いものに分けられる．例として，渡部ら[10)]は，地域アイデンティティを「長年の居住を通じた対象との密接な関係性」，「他地域と比較

キーワード　地域アイデンティティへの指向性，意味理解への態度，景観
連絡先　〒982-8577　宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35－1　東北工業大学　TEL022-305-3533

© Japan Society of Civil Engineers

した際の地域の特性や優位性」といった内容を含むものとしており，それぞれ前者と後者に定義する．これらの違いは，地域アイデンティティは個人との関わりの中で存在するものであるか，関わりが無くとも既に存在しているものであるかということである．

このように概念は多義的なものであるが，地域アイデンティティは地域に対して恩恵を与えるものとして扱われている．実際，地域アイデンティティは地域に対する愛着，誇り，地域活動への参加の促進といった効果[9)11)]や，地域の将来像を示す[12)13)]，地域に対する認識を深化させる役割[14)]を果たす．

本稿では，景観は人をとりまく環境の眺め[15)]であり，その中には地域の文化や歴史が現れていると同時に人々が接しやすく，また景観自体がその地域に対する認識や意識に効果をもたらす[16)]という考えに基づいて，地域アイデンティティへの指向性を景観の観点から論じることを試みる．

４．地域アイデンティティの形成/認識

前章でも述べたように，地域アイデンティティは複合的に存在する概念である．ここでは地域アイデンティティの形成と認識について城月ら[7)]の「地域（が持つ）アイデンティティ」「地域（と関連する自己）アイデンティティ」の分類を用いる．

前者の場合，他地域との比較，地域との関わり，外からの働きかけの３つの認識過程が存在し，複合的に起こる[17)]．またその形成には，経済性，公共性，社会性の３つの形成過程がある[18)]．一方後者の「地域（と関連する自己）アイデンティティ」の場合，地域アイデンティティ要素との関わりの中で地域のことを想起することで「地域（と関連する自己）アイデンティティ」が形成される[11)19)]．

これらの形成/認識から，地域アイデンティティというものに人々が指向していくとき，何らかの内面的行為が発生していると考え得る．また，景観の立場から再考察したとき，これらの内面的行為は景観に対する意味理解と捉えることができる．ここでの意味とは，景観が持つ事実のみならず，個人と景観との間に存在する絆のことも指す．すなわち，景観に対する意味理解が地域アイデンティティへの指向性に影響を及ぼすことが示唆される．さらに，本稿は，この意味理解には，「この景観はどのようにしてできたのだろう」といった景観に対する意味理解への態度が存在しているのではないかと考える．

５．まとめ

本稿は，文献調査に基づき，景観に対する意味理解への態度と地域アイデンティティへの指向性との関係について基礎的考察を行った．その結果，景観に対する意味理解が地域アイデンティティへの指向性に影響を与えることと，景観に対する意味理解への態度の存在が示唆された．景観に対する意味理解への態度といった人の内面的な活動が地域アイデンティティ形成に与える影響を明らかにすることがこの語の課題である．

参考文献

1) COUNCIL OF EUROPE : PRESENTATION OF the European Landscape Convention of the Council of Europe
2) 渡部 陽介，横張 真，落合 基継：地域アイデンティティとしてのビニールハウス景観，ランドスケープ研究，71 巻（2008）5 号
3) 高橋 眞一：地域アイデンティティの再構築に向けて，学術の動向，16 巻（2011）3 号
4) 沈 恵園，朴 敏貞，禹 在勇，石川 義宗：地域文化資源の再発見と地域活性化，日本デザイン学会，第 66 回春季研究発表会
5) 国土交通省，美しい国づくり政策大綱，平成 15 年 7 月
6) 渡部 陽介：景観研究におけるトランザクション：農村地域において地域アイデンティティとして認識される生活景(<特集>トランザクションの読解と展開)，人間・環境学会誌，13 巻（2010）2 号
7) 城月雅大，園田美保，大槻知史，呉宣児，所谷茜：「まちづくり心理学」の創出に向けた主要論点の整理：計画論と環境心理学の橋渡しによる地域再生のために，人間・環境学会誌，16 巻（2013）1 号
8) 渡部 陽介：地域アイデンティティとして語られる景観構成要素の空間的階層構造(第 16 回大会発表論文)，人間・環境学会誌，12 巻（2009）2 号
9) 重岡 徹，山本 徳司，栗田 英治，木下 貴裕：農業農村整備事業の導入に伴う地域アイデンティティの再醸成機能に関する考察，農業農村工学会誌，78 巻（2010）9 号
10) 渡部陽介，横張真：行為と距離の観点からみた農村地域居住者が地域アイデンティティとして認識する景観の特性，ランドスケープ研究，73 巻（2010）5 号
11) 鄭 蝦榮，松島 格也，小林 潔司：アイデンティティと過疎中山間地域におけるおつきあい行動－日南町を事例に－，土木学会論文集 D３（土木計画学），68 巻(2015) 5 号
12) 自治省行政振興課編，ローカル・アイデンティティ　全国市町村要覧　別巻，第一法規
13) 藤本 信義，三橋 伸夫，永井 護，竹内 稔：地方都市整備の方向性に関する住民評価の分析，都市計画論文集，29 巻（1994）
14) 大堀研：ローカル・アイデンティティの複合性：概念の使用法に関する検討(<特集>地方産業都市の興隆と安定：希望学･釜石調査からの考察)，社會科學研究 61(5･6)，143-158，2010
15) 内山久雄，佐々木葉：ゼロから学ぶ土木の基本　景観とデザイン，オーム社
16) 笠間聡，松田泰明：良好な景観が地域にもたらす効果とその評価手法に関する考察，土木学会 第 49 回土木計画学研究発表会(春大会)
17) 越田 益生，志水 英樹：都市における地下景観のアイデンティティの形成過程と構成要素：都市における地下景観のアイデンティティ(その 1)，日本建築学会計画系論文集，65 巻（2000）529 号
18) 張 紅：歴史的街並み景観にみられる地域アイデンティティの創出メカニズム，日本地理学会発表要旨集，2019 年度日本地理学会秋季学術大会
19) 谷仁務，横松宗太：アーティファクトとしての地域資産と住民のアイデンティティ形成：カテゴリー選択モデルアプローチ，土木学会論文集 D1（景観・デザイン），71 巻（2015）1 号

© Japan Society of Civil Engineers